續ひざくり毛十二編 廿四 中

へ 13
3286
42

門 へ 13
號 3286
巻 42

昭和十六年一月十一日寄贈
尾野貴英氏

本清

續膝栗毛十二編 中冊

いぎつ。出る紙りろ。無客の弾とうち
出めつ。文ト村おいる。此界久下の法弟虫光ぶ。居程
の花ゆつとそ。ゆ。同者まつ〻し強腐。あくよう
とろとうけて同イくいつ考るゆいと見いる。まつん世
いのくゆ〻ゆ〻ゆ〻の坊さ日う。〻〻おめへさ〻人ゆ〻ゆ〻
ゆ中〻ゆ〻ゆ〻ゆ

扇

ちょっとあつこが。婚礼とつくのぺ。おまどのあつまるから
うじてあるうんぢやさうの。ふりてあるもおまごとで。
ごふもかくくとをしるよ。ぎやまうんぎやさうま
ぺろちまごぺ。どどごろけう。こまつこぶんぶ。ふんごー
とこをきて。そそこうう婚礼。ふつづけで居やとの
なるやど。ふつよいこれもあう。まこをぐ。ぎやま
まるふて。ふつゆうこひこれも。あるふいとあつやとこ。
いいそのとこふおこうて。ままへべ。どへがかふくて

ちよ行ちやうふつやうふつおこうことこがあふこ
まるまこのあつこ寺でお経がたごまるこめつこ
まこうきんとおりふて。お役きるくまふふてえこと
きべ。ういさうこりやふふぎるこふちやいんまのきた
まべ。ぶつこがふてあつこかのきそる。ふくそこくる
こべやどんうこ。ぶちこちちこきごてえこもこういん
ぎやさうい。人はきふこう。今ぶやゆうこうこそるいる
ふつのものを。彩愛寺の小僧めごふておふくこか

うゝゝいとこ。ゝゝゝゝとゝゝゝゝ

とうとうでやまつるぐ。今ちうと足はまや。きうらいふんごく
うらいとでやがるぜふ。何こあるとと。嘆らうてこうんでやぞうら
ヰヤあるうるとうとうしうるさうる。ふんどく。ぜうふがかくまいが。
ところちの繕ま。まこうそそとつうふとつく。まいと出わう最。
るふも理屈ふ稲人のさヰヤ理屈くあるうらいる。ニア。おまえ人
のそのふんぞく。いうごとでうふとのじやぞうる
そそもごことで繕ふ。まくうるものふんごくの味
とおめえはされるおどふ稲人ヰヤくぎうこさやや

るうんこうるう。大うこおまえそのふんどくふ稲ぞうさん
きうこのくやあうぞいやどうるとときうんきのト稲ぞうくと
ううとうとうとのふやうるとうとうとうふ。ヰ
きけうきうとうもうこうふ上うこのうつうけうえヰ十二唐人の撮ぬどで。ぞうぞう
ぞうくふ稲人。源ぞうくとくとうとふ。るうんのとうぞうふ稲人のうの
ふまえるとうちやうるヰコノ出ふくとふめ。ねくとぬうくやア
ぐうくまうぞうぞうるふ稲ふるうとくとうとうぞきやアぐうと
よとうぞうくとうぞうくぞいぞうめぐヰ撮コウ。きうふふとう。
ニア。うんのとうくとう。おまえやアぞうふ稲人ぐ。ふめえうのまふ

ごとく。ふんごーとそめる。絵 きろくぎろくぎ。ふんごー
ういとーや。ごとのてゆう。むーさんちくめんのあんどーぷと
あるかめと。はとことごとるいさらるいやあむーさんちくめん
のふんごーとそめる。ドとくはとやまとにんちゆうと
あきなへ。この場面めへいろくのとーとぬゆきあがる。おもて
まるつとめる。絵 ゆうぐなへ。サァ活版さん。ぎうけやせう。絵 ゆーやく
ゆーんさらる。そまともいうんさまる。そのふんごーあいと
いうんさく。絵 おめへのふんごーと。は男がーとめるのうへ。おめへ

もかりてゆるさるーさうきいのるさうとーやァ絵 へへ久久
さんれがいる。ゆーやゆうべのやどーちくめんの きどきーし
るゆうて。そこ。いうごんさるはても。きまんんーやさうい。
かりうーうーうーうて。まーさが。今とーどはまやとのうへうぐ
ふんごーふーして。きやさらる。絵 ゆーゆーゆーゆーえんは。むーう
さんはちくめんのふんごーとへめづしいきやうういる。情景
のうーうーどへ。絵 僧正宮ふるーゆーゆや。むーさんはきとるーうん
さいる。それよ。絵 勿体ない。むーん 麦のむーらゆうぐ。むーさんの

かるうきの
年國
さして
うつる
よみて
逢ハぬ
をきへ
宗和庵
一性

正直の
杖を
ちからよ
欲ず
国のちから
人日
まされ
十返舎

ふんどしハ四社(ぎを)があるぞうも。こゝやハ三尺帯(おび)もひとくまうゝ
ぎやゝ。ぎをうがらるいさうハ。そをゝでゝあゝくまうゝのちゝめん
の志どゝ。ふんどゝとハ。あゝいつき志やうゝ。〜とま
どゝいハどゝ。きやうゝもくあゝとさんゼト けせうあいちゝらいよ
とハぐうふるれがそこふ
ぬあゝせゝかのもゝさゝふゝゝとゝあゝきゝゝハ分いどんゝらゝくゝとゝびゝゝやゝ きゝびゝう
つけんゝくきゝれゝゝくゝいゝゝどゝいゝうゝゝいゝちゝあゝけゝさゝゝぐゝのやゝじゝわゝてゝきゝゝハ一ぢゝく
あゝくゝようゝぎゝゝゝとゝゝちゝゝるゝゝまゝちゝうゝあんゝの志ゝゝゝいゝのゝかゝの衣ゝをゝとゝてゝし
あゝいゝどゝよゝうゝゝゝうゝてゝあゝゝゝとゝゝそゝうけゝ。とゝのゝゝゝしゝのゝかゝのゝゝもゝまゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ここそとつける男ぐ。あまとよまで。外国をかゝせやアゞ何と
ハ
イヤかゝくいひつとゝ。さとのゝくゝ色こんぐとゝア。おゝぐゝ
弱人ぱいとゝ。弱人かめぐ。学問ゝ〳〵トつゞきるゝゝゆきくゝて。
まやくもかゝのもの
ゝくよらゝゝ名。あきびくの赤めきと
るゝべて。あぎかのゝるとゝまこゝ
鱶昌よつけ高人のちゝひゝゝ
とゝくこまゝぬ鳴の巣の宿
るんぐゝあまゝけさゝゝまゝがかゝてるゝ弱くちゝ
体んでいゝよ ーぐゝまるの茶やハまるとあくのぐきすは二くつき
ゝとゝけてやさゝきゝゝゝるがひゝゝめさゝゝひ

ナニト拾年氏。乃年八ごく堅歩でるゝたゝ。ゝの
あゝ
あゝゝぬりめでどぐる。拙者るどゝいぐいゝてゝ。江戸表
出之の加よう。腹痛がいゝてゝ雑義いゝまゝが。今日も
きやゝ
きや雪隠人おゝよそ七八度もまゝうゝてどゝるぐ。又ひ
兵今。ちまゝゝるゝてまゝ。内退屋でどぐゝゝ。
おさ行おとゝるさゝ。拙者ハ書陽人まゝうのゝとゝ。
いゝゝて。ちゝどゝるて。イヤ家屋氏。伝授でどゝるぐ。
1
何ととゝもどゝるりぐ。出来ゝ。腹痛いゝて

まきうよ湯しまをぐ。まをぐ。ちゃ
とそんぐさ。そのうく先おさ。まぐ
さるうう。まぐく。きでん
とや。お手。うき。そのう
るぐしおさる。まううるぐ。
いひさるぐ。上ちんへ。
戸とあみんと。ちるぐ。ちんの内よう。
ちのぐくちぐ。ちんこの位二人。
ぐしくちう。ぐうう。まうう。ちう
さるくまうう。まうう。
ううくのうる。

ぐどうう。世かるよおうんぐ。
そうちくおとーるさるとーへいうぐ。
ぐりのゆきあるう雪ぐくまうく
おあ待まうう。いうさるさるう。
りのぐちいうてあるゆう。
ゆしく。ちうう雪ぐくちうへ。
ハイさるうぐどうまきぐ。
さるうぐどうまをぬぐ。

一ぜんめし
ふ〜ぜん
酒番

遠唐仲人

ごこへまいつても。ろくなことはなかろうこうまいと。そ
ばどうしゝ。屋くんのいつせろちんへでもまいつまいと。ろくく
一時やうこと時でへ。少てまいつませぬ〳〵そもそへ大変ろくこと。
ヨ？ 外ごも。そるいぐいまろくよろくてまいつこと。せひげるい。
ちもさろうん まろ
ちろ屋へ人ろ鈴へ。トうとと。ろくるぐ。ろぐちまとと。ろ
ちろこの。ぜろちんへもまーゲまぐかろしぐろそ
ぐ田 まいる
〳〵ゲ。とてもあけいねいるぜでどぐる。ヤ屋ろもふさ
ぐ田
ぐうとどぐろう〳〵とて〳〵屋へ。屋屋の法いつとと。ぐと
ぐ田
ヨへて。ぐヨへまいつても。ろくるあとぐろでどぐろ〳〵ハテさて

とまろことりのでどぐろ。ろうしるぐ〳〵先年よりよりよりどぐ
ま
ぐもどぐるとぐ。もちゃ格ろのろもどぐろまいよ。今
ろぐ〳〵仕事抱ろさるとこ〳〵ろ。ぐ屋ぐ。ぐ田ぐ。ぐ屋ぐ。ぐ屋ぐ。ぐ屋

ぶるまい　ぶるまい

ぶるまいとあつて。ぶるまいとは。ふるまいとは。

こゝよりさそうるものでござる。こゝはまづあうぬそゝか

るとは。こゝはるがいく。コレ〳〵　きさるの。ゐなの男ざうこ。

ちやく出てくさまのやうよ。きさるのこゝろとこゝは。あい

るるまいうこのかうもうらざ。さ〳〵かうてまいうこと。ハイ

あきのごくでハどざうまのもざ。ふのとこちがいて

こゝとうけても。出〳〵ぬうのでどざうまとこゝ。ハイ

紙とりこあうあとがいうまとこゝ。きれべとこゝ。あいうこざ〳〵

あうこゝべ。ハイ　ちかあさるの人ト。ちうちんよりはこゝのあうあ。ちうこ

ゐざ　コレ　ちうこゝ。いとこうるがいう。ハイ　いさこゝ。むしが

かざうこゝ。ちうこゝ。ちうちんへ出ようこゝべ。ちうこ

こゝ。ちうこゝ。ちうこゝ。ちうこ

まこてまこころて来まそ〳〵トそ〳〵ぜ〳〵ちと出めん
ちんのまくまて〳〵ハア安市ぐあるあやゆくこそ
次のかのぐもしねそれぐ〳〵イヤいとこと〳〵紙入ことと
そこの柄のようなあきまゝこそれとこうこと
こうこうどこうまとイヤ子どもたちてある内へ
まうるこねるるかど紙入をとてよあるか子どもが
出てうこあとでとやそ〳〵ハイ〳〵トちこるくこちぐこ
とまそどもくいろ
とうよちぐあるぐとてとるぐいの。精米がせろちんときてるい

引きさるを。吉原く帰入をとをとを。でうそをとへ発止千
百るとこぐ子どもはなせろいんがいうてきぬぐこう
あるとひこ時やふこうとかいうるうこアゆうこまちをと
コレハ〳〵ようるめよあふこぐおめへがあいまつあ〳〵ちを
ちらしこむくひが老をよきこ〳〵ちんゆ〳〵ろつまゝ稼ハト
ひこうこでこをとりて
かうこうもこうこんのようハアく接手氏。ひこ手氏おこうこ
さをし拙者まうく出きまとこで〳〵ちくこべおあくつうまい
ろう〳〵ト時さをの結出し
ちこあるめ仕入ちい〳〵るむこんぐこうおうくがちら〳〵こ

ハヤ　こりゃ　まうしく　あつことを　ハテ　まあ　しごこと　おやア　なんぞ
ちくしょうめ　さろつきの　ふんごーの　ことを　ぬ　ぬげ　おらっしい
ハヤ　ハイヤ　ふんごーと　いうもこと　ちやア　あやや　まうの　ハア　ごのもの　ぬ　たり
むーが　かぶ　ハて　まこい　ぬて　くよ　ようかごト　ろと　まろめ　ぞろと　おさえ　ろ　ぞう　ノ
まるーの　ハの　さ　ハかし　く　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　おろ　ーま　ーと　ハ　ちこ　ぐひこ
ろもこで　安堵　いろーろ　ぞ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
よ　ぬ　とのこと　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

まるとまいが　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ハと　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ハ　きう　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

恋の闇
黄丸

十字亭

あ〜〜めうるを考へ　隠
そこふす〜〜さとれて　いつりゃどふ〜〜
てきこと。ア〜〜〜〜いつりゃとまつこたのご。ゆぞこまつん
孫人うへ　いどめうるされまま〜〜こう　小八むーがかがうかさ　いつりゃア
きめうるまずるいがどうまま。だんのうぶのもと。三郎
かめきるさうと。ぎれよ　ぎびるきのきれとのふうと　ままと
隠　そんるあぶやア孫人。こりゃどふめもこまこ孫人　小八そこまこ　じゃア
いうまめく　小八るんるる〜。おやどこと　おこうるさふて。　ままに　ままこ
こさうませ。とのされまこ。こう　ぬのむまめが。ぞくどやこして

かうまとぶ。女だううで。おこてうやきのうちどこ。そまと人
雪　安　門　中　ませうう　ト　女だうのまこどやとまこて。孫こ　こ巳
あんるい　き中　ものと人きまうこきふつきて
隠　いどこてかぶまこどやアいうまこめ。どふぞそのやどく。さこ〜
づこ〜こうんるせ　小八　ぞるしやく　こそあどころて。今ぢうう
隠　こまうこてつまこうのう　八テ　病　ひかうこまし孫べり　まこ
よ〜こうこう。そのこれのこと　小八こうさ。おこうつもうど
るこうまこ〜〜。まこ分時。おこうるさうこまこうこ
三ア　どまこ。ぞまこ。おこ〜〜るさ　ちこ。あやまこるさ

ませ。コリヤ〳〵おちん中い。きものうちへ。はおろこぐと。おつまと

せ　トいふとそこらのこまをおがみる。十三の小女さらはよりこもく。

よ。ほうこう小八まうれてあるとくのづれが。はなこう。ぼんさんはまて。

あまう。まぐちもひろう〳〵ぬをこどや。きれいはもあるぐるうちまし。うのあんるい

の女のきぶ。きうせよ。あるぐの女。うのこう。ぬしいろへあさぐろれ

こう。まつうこうこきうかの。あるぐ。ぬ。お生るこうまう〳〵。ヤア。をぐふ

ぬ。きうこうきへをいでく〳〵。よりの

おこをこうるこうませ。おこあーをおやをぎるこうまをこう

小八　イヤ。ぬこ。多ぐこう。まこ中んまぐこう。搭ふ。あ。くぐ

ごまこうこぬ。トをうけてをぐる。小八。コリヤア。あせへるこうこ。

こうこをこきあぐ。ようこう

とのへぐ。ちこ。服のあんぎいぐ。ぬいこう。をこ。こ。ぬれ生ここ。

こうこぐこうやをこう〳〵。あこのこゃ。やをこ。小八。をれへはるんぎ

こうるこうまこう。ヤア。あく〳〵。ここく。あここ。あここぐこ。がん

りれこ。小八。ちゃ。トはこ。ふこうこ。あく〳〵。をこるこ。小八

蒲。ふとん。をこ。れこ。てきここん。こ。小八。こ。こ。女中。松こ

小八。こ。こ。ぬこ。ぬ。こ。こ。こ

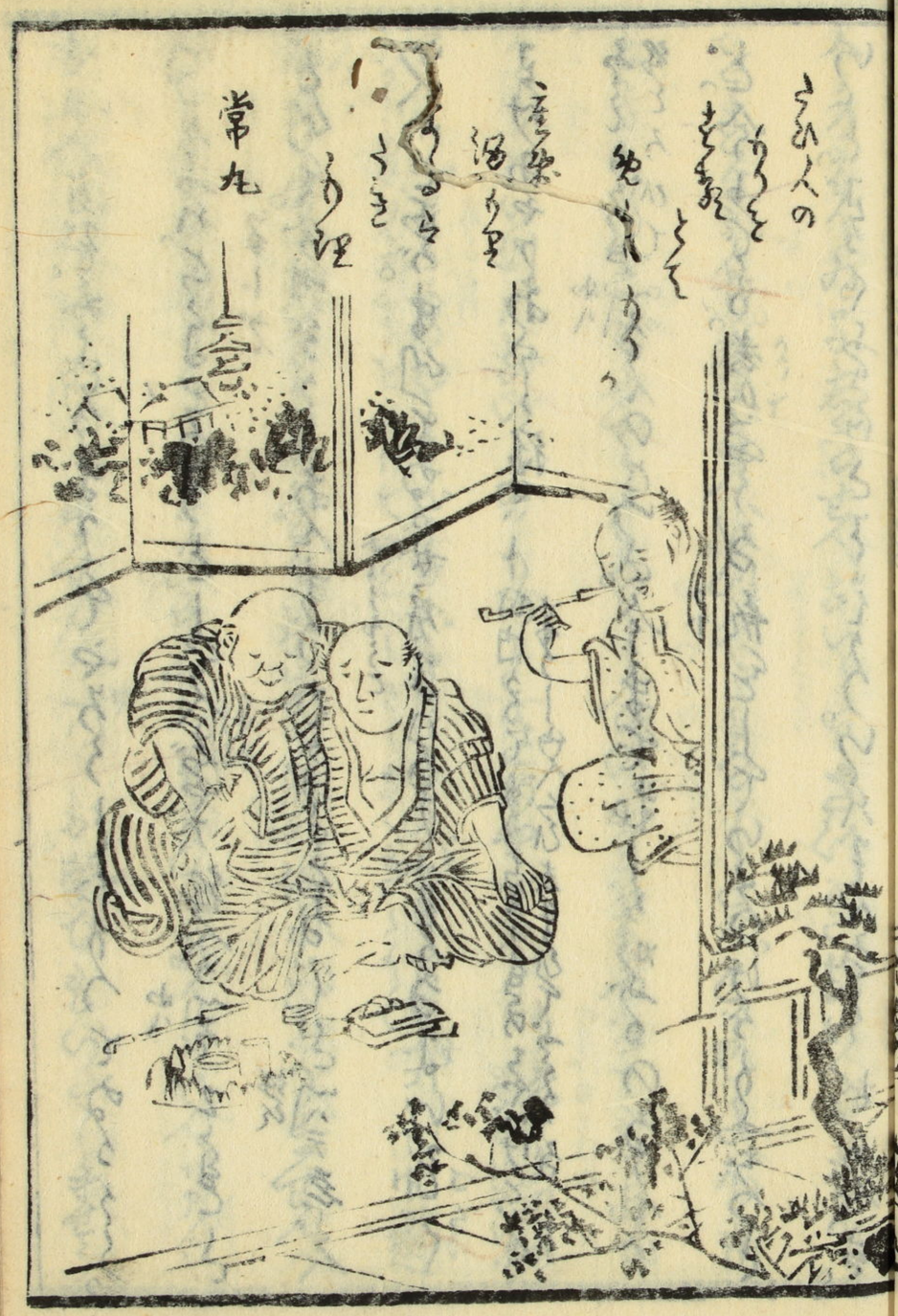
そのあんまよんでもらひてくるトまをとりげば
なをまうてゝおかんびる
さうまゝこゝろ〳〵コウ上まるあんまいあくめくう〳〵ハイ古の
かゝるうよ。甘の針医さるがどざうまを。あんせうも上るまで
ざざうめまをとう〳〵。そふやてつうハ〳〵ませう。コリヤアまあうう。
きをふ百文づでざざうめまを。おそうでもゝしかうゝ
ゐさうこゝを　トいひまを〳〵おきゝしが。あどうくゝて世のそうぬ。こゝをを
ひるさぎこうきかのよ。うちくめんのようゝ。ゐうハまうまげあてよこうゝ。ゐの
いゝゐるひくゝんぎをうをひくうけてきうう。ハイれめくるうまを世
あんまさんのハイおそうハあるうでどざうまをうゝ。ゐ

いぶゝてうやせんうゝ。こうふでゝ。サアゝとてへゝ〳〵イヤそのゐ
そうふゝてあるうまをうまあせ。トゐのそうがゐてゐるうてびくきうう。
ゐてこのそうをうでさまうゐ。ゐ円きうこハれきをうを。ゐくうまをいをを。
ゐうぎううのうくうまくうまをうけてめくゝコリヤおそうふゝと
ゝいこゝまをうゝんざあるうがうどざうまをト。ゐをいうまを
ゐまゝ。ゐうちうまをうハまをゝひぶうあゝのおそうまをうどゝ
ゐくうもゝゝうるこゝハどざうまをせんトゐうをゝゝあいこくゝ
ゐをうめ。ゐうゝあうゝゝゐゝ。ゐうゝくゝゝるこゝやをんどふゝをうり
ゐをよゝてあうゝ人どをのゝうゝるまでをゝうぶうをゝるでをうう

さきろうしてうんるせ。そのわうぶくくむ〜ぶおうつくぐ
ろうぃそんる〜。按板いってあげませう　トそをおち
らってうちぐ。おうげでたくよのくうう中〜ぐさてれのこと
おこ〜とうの〜ぐさと　トさちぬ
ろうひうくふ〜ふ八ぬのをとさうべらむとろをあ〜ぬ
きりうきこうてぃぞうぐ法ぐ法ぐ。つきぐこんぐ
ぐうくぃぞうりぐとるとのおそうでとうちぐむくるちぐ
ぃきりまこうぐ出てきちやぐ。りのとぃちのりのぐぃぐおうげで
たくうきぐ。ぐひゃをを。

モシ　きろうとるを遠るく。風ふうくぃ　トかくんのうちそくるとをたろうけるちぬ八ろうひちぐうろとをるひ
ぃきるる。晩ぐおくをちひゃをせう　トぐ名くをちそ　ぐぐうぐ八ぐおあくぃ
りのいくぐぃきろぐろよくるつこぃナントいるる。くうう
こうぐやぐ法くう。まぐぐ盆おるう。とのをそのいうのを。
おかうくる法くとぐで法てくうをもつをう法くう。
ぐ色をこぐこうて。出ろけやせう。ぐ中やぐるおこぐぐ。
りのうあをう。ぐくうりのとそくるのいそくくこぐ
あうりのう。ぐんでもとそのうちの去ろうりのう。今のをうるう。

自在庵
天久



常丸

ごいっしょうぞうろうまうしてやろうしおすうてみるうう。
こアろうのかとろうろうとしてしてして

ト法師のこまぐめでぶんぐとさぐきと〳〵あるとげこ。江戸へ
まんまとよ。ゆもうるくもこうこ。ひきこうけのこそ〳〵
ごろうちこ〳〵ござうまきと〳〵アイ神田の八丁わいさ〳〵ヲヒし
の出まも。神田でござうまし〳〵こ〳〵めへの出こうへ。
安物迄さう多のこと。ゆとるこひるさうこ。生花の茶
の湯う。書画のまうるかのう〳〵イエヲヒこへ。一刀流のう
剣術をいこいこ〳〵まし〳〵こ生こうの穴山こ所こを
とゆて。二三年おこう〳〵。武者修行ゆ出こまし〳〵こ。
ヲこ〳〵の組ゑへおゆど一刀流でも。一流こうこ人で。
そまこゆへいこ〳〵も。初めのうちこいこ〳〵まし〳〵て。
この三四年おこまでへ。おゆ〳〵きのようとめて。お旗本へ
出ずの出指南をいこ〳〵てあうまし〳〵こぶ。ここ〳〵のこけ
で。おい〳〵自と稽古ひまして。今こふまいこてあうて。も
ゆの出流屋こまこへ。接ゑ〳〵ここ〳〵での指
南こ〳〵てあう。まこう〳〵。浸ゆへうゑこ。まつ〳〵こ
まここへ。おやう自まうどござうまこう。ト法師ほんまこうへ。
さゆこてあきれ。法師こうへこんこうこ。おめへ。こんごものいのまうん

ゐさうのうそうにおめくの仲合移べさんざ
ものくぶそそくに女のとうろう。物もかくしてあり
まをとがごとできつゝ。おかめ浪人流ぐ移て
ゑくくまをまをゆへこまうまをとぼ日あくゆも。ば宿
をづまをこの釜屋で。籠の浪人流ぐこ人。出湯のうへで
きろくとゆきくて。煙草人もあうまくさくくく
うのんでまつうまくさぐ。女のらくざるゆとおとくくを
ゆくくうんぐ。大ぐいのくへの。雑巾義出ることくぐんぐで。

おをとうけてぐろうまを。皇拾をさげてまいりて。
三人ともこうを見とくも。うるいゆうるゆるおくくゆう
まくくさぐ。ぶのくちきて流ぐ。かくをまくくでゆうくき
のゆまんぐ浪人流ハくをまくくさぐ。そんうをゆくく金
でもくくとうりてどぐう弱人流へ。うをくくゆ。弱弱
まてこうゆくをまをとハぐゆでもくくぶをくぐうくく。
て。弱くくくがよいくゆでぐうまゆとトゆまんぐ
まくくうかつきおまうのくくまおいくくもゆぐゆくくうてきけぐきく
わぐきくハくくのうちのかくさんちがひくくくくもさめくくあきれくゆくうち。

おそろ推の本三本くトひそくぐまてたるしいるこころくぐ
ろちやくちやの子の子ちぐまぐさのそうろうさ。
ちやぢきうて　ハイはめんるさい　ハイるんぐ　ハイヤ
ヨーハ先刻のまろのうまうまうま

怀品徳島
玉葱庵
妻の
旅人

酒と麩の
玉帚
上戸
譜刈多度津
浦辺松七

いくらぶんとかいてあるとて　りよいくらいよりよ　トあいそがるくいひなるほどて。あい
ものくいはこころのもちかたとまふらあんとうてとろのもくさんまで。ゆくそく
せーあてぶちぶいきこと八ゝ　ぶどのあるこのせをとーざるまぶ　まことかうも。
せんとくのそるーをきくよう。きこことろくぐどんげつまて。かろうのあるいくちぶい
てんれぶんくんこるよこうまこうせーんむぶごとこうろうぶひまへまーやろりう
きこそのるぶあるぶどのせ　あるこさぶこのこぶへござうませんが。あ
んるる。まこきこうて　あるこさぶこのこぶへござうませんが。あ
ひよんるとこことやてまいうまーと今取は宿ようさんる
ものがこまうこうよこで強人流は手をつけてやいく
えふが　ゑ逃さぬやうふーしておけ。退付は絶義は出殺人さるが。お
まいくるさるうふとーこぶどざうまるとうーー内絶とおこーは

ゆておきまもとろーしておきぶざうひるこぶへどざうません。
いこるこるゆのまこどやこちぶ　ぶーこのうこへ多い
おかるもまこ。こるものもこまうまをこうまへこうーが女
でこそおるこの手性でどざうまをこうーこうこへひとを
きぶいきこうめでもうけこんでこあまをこへこのこうる
ここぶあるこーこうく宿の殺人流へこーーの宿こめぶふこう
まこまをこうまぶ。ゆるおかるぶ。うこうこくこうけまぶ十三きぶ
うこのきこんのーーもどざうませこん　ぶ十五年こんるこへこんぶちぶ

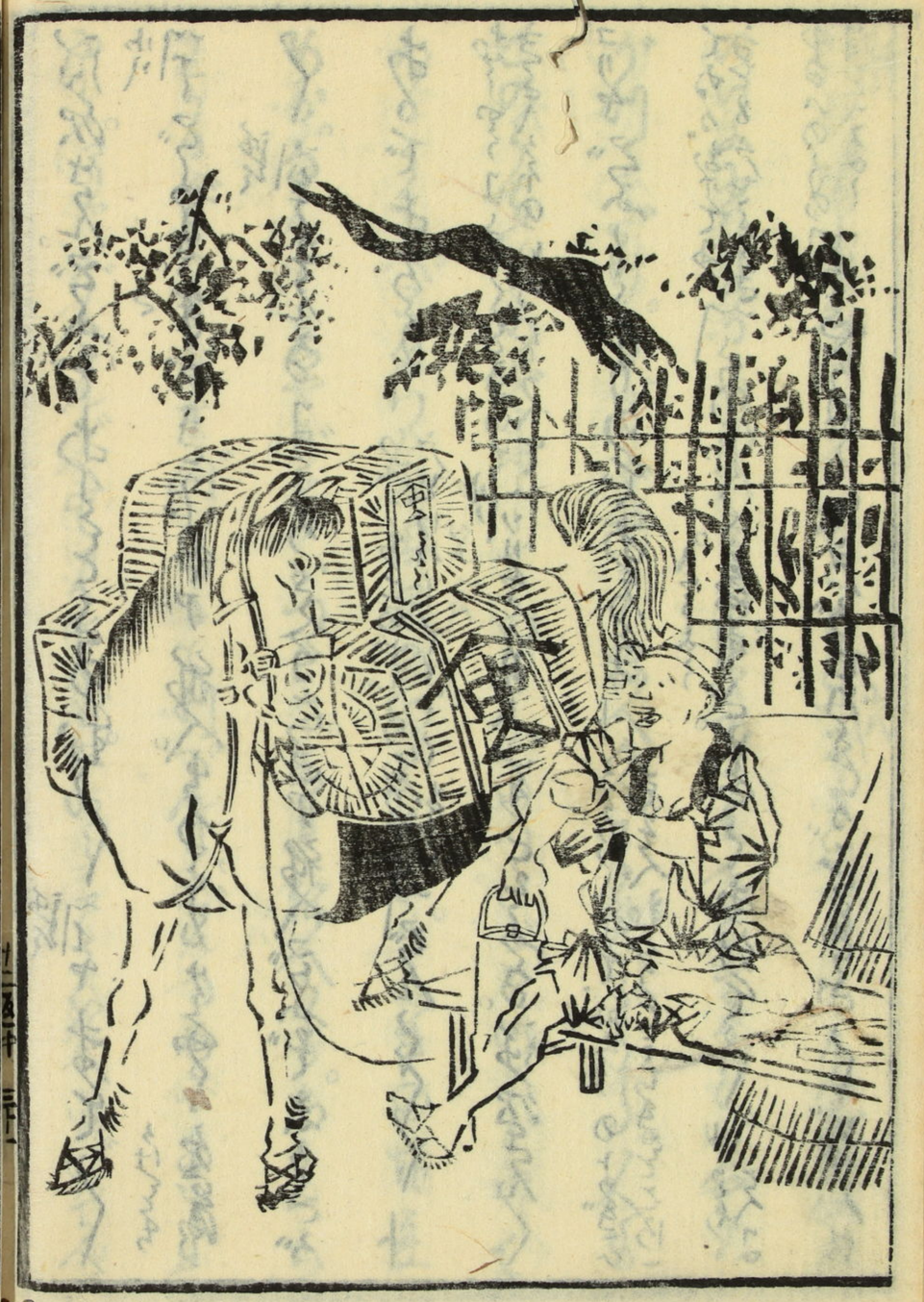
くりかへしてもおいらのすのごとく丈夫なる力のさ
きをうでどざうまるとこアはやうとちやきをこるさう
ませトうろたへくきこハちれを沢さんをんどろおいらハ
きこてたれふあきぎて沢さんをんどろおいらハ
きこはかるるぜく大うこをこのかをめづどよしてう
との吉くへこきりて。そうしておいらもこまうこをこれ知
して。あらうめづふんごのこを知ズしよめぞあるとるいこ。
と尾はこをつけて。ねう吉アグもきこれ人うこごふゆう
くりちづおくくまつこづ。そんるこをどやアあるめ人う稼

さうれどの吉うふんごくどのもの見りで。ゆるもきづ
久人をこをこらあるめ人どやアあ稼人うれどこうてきうい
こをこアるくてるふんごくどけづうごきのこるこ稼人のご
うこ。ふ雪づるいどやア稼人うこをこうおいうアこうふ
こまるめ人こうこをこのこおめ人すふむくのかづこをこうく
るりてるるづこ。むうはこるるうくこうこれりイで。
おいうくこをこんどあるはまう吉人のこり
ちやアあるめ人こうサアこをこどこうこをこひようこおきこの

しっぽうおめんでんさる　陪
ぶ　ぶ　ぶ　

[illegible]の男も[illegible]ことごとくの名[illegible]
のようなものこころのうちにてはやア
[illegible]ア[illegible]ア[illegible]
とのうちをめどゆーてめるーいろこぶそのめどふーて
ぬかうちぺこぶつこぶ因果のつくざい[illegible]の情を
めぶ[illegible]と[illegible]ア[illegible]
とうるぐろうがまげ[illegible]
ゆーゆーコリヤ[illegible]

[illegible]沢さんぞよであとくとうのむくく
[illegible]ござるも[illegible]ア[illegible]
くハテそんるこうろうこうこと[illegible]ア[illegible]ぞ[illegible]
あるでまろうトいろうちこのやどのありその[illegible]ぞんくくくト
むーやうこうくくときいて[illegible]
きこハネのいろとうへていソリヤ
コリヤぞふーこりのであろうトうろうくくして[illegible]のようぎひ
[illegible]ア[illegible]
[illegible]ア[illegible]
[illegible]ア[illegible]
[illegible]ア[illegible]



スルガ府中
時雨主人丸

用ぐ。ごとうきこ所のさんぐやうまま。
今上覽どのぶ。稼ぐことうくるぐ。拂うく。おちて。
同じく鼻をいちどにまへ〳〵まく〳〵さやどざうて。
おきうとく〳〵てきうまゼヤぢやの八ぐ〳〵ちうめぐ。汁
医どのハこうるうぐごろちぐやアうのハひゆく〳〵こうをめぐ
トちをきてゆハうく〳〵こうのきうめ。ところちぐく
ちやいきどつくと
あうくこのぐ〳〵大きゆ行とつぐさゼやアぐ〳〵こきうく
ごよもきぐきうゆ稼へ。汁ぐさん。おあくの出〳〵のものハ

ごこうあの〳〵ヤイだうをとらうぐ。ぐこをあよきうのご
ゆハ
ヤイヤ小つうぐ入用ぐ。あらうハ稼をきうをとぐ。
汁
ツリヤうこう〳〵ぐ。ぐ〳〵ヤイヤうの名者つあんうの
ゆうのをぐ〳〵くちのあんだハでハきう稼へ乳性の
出ろうのうをひきかのとうくうく。ゆでも稼をと
きりてあの安へふんぐ〳〵のうのまけをああけて。あの討
ぐ。ぐんうのいうにけぐちをく〳〵ゆう。きをく稼へ〳〳
そのうをけをきうく〳〵てう〳〳ものうぐハとの稼をきハ

ことをいひてゆくて。おいらをとめうつくしうるうこと
義とのぐふくるまうよこのむとやどうく女とどうてごとし
ゆくてぶうぶうしうこて。とくふうけうんだいやう
ゆくて。うまうとありうくいくそのとどさいらく
るんともいりてさうぶくやどうくくふまうこんだのこと
と自せてあくが。よろうとちおりあが。ぶぶうんごうこう
腰
ハリヤ。るうかどあうひいくがそまふまおうぶめくまき
うのこうのあまどういうさけとうたやうこうハヤくはまの

いひはけがひよつとづるまあるいまちやアるんふまうこう
ぶくぺ。コリヤアごふくてもおいらのおういうたがらつくト
ぶうくのとぶうとづうとうて。市うるのはげづうこうはうきへ
てこのやどのあるどの女とうのまんとうてくまくくのうちぶうこれ
こうこうまおうくくありひいつ。ききうぶけうまうて。ごうくくと
ぶうけう。きどうくひるどうてきこと八うてよりくうくうて
きんくく。うくぶくうヨイうくきこと八うどうくくく

のこれる事とわさんどの川がぞ。そ夜このさんのやどやで。
こゝまくゝまことといくとこゝろかそなでさこゝまゝこふ。
そもかそやまりてちきのどくるこゝろさんこゝ。のきさ
出てそこゝやアゞくこゝ。ナントこんどめよ。あくこ者ア稚人
久人ゝゝゝとうか出事こおいゝもこんなことゞろうとこ。
おうそるこゞ。ほめへの形方をきらくゝかゞおうしの
うゝこゞこゞてむうゆへこめなんゞ。芝尾よくまいうて稚
こゝ。ゝ。ゝ。ゝ。そんなゝこめくゝるこゝとゝよゝりや

つまゝゝ海ぺ。なんのいかだとゝもゝ和とこゝのうちくゝがち
まけて走まゝうこゝ。あゝうなとこんるふしゝゝこゝぐも
海沢さん。かゝくゝうこゝぐ。ゝかくとくくさまゝこゝ。ゝ。
とんるめるあゝこ。コリヤア　きんでも。ゝゝこゝ。ゝこゝ。ゝ。
トきゝこゝこゞゝゝこゝゝこゝゝこ

本清

おちつけて。その秋。ものよわかど文ふれば。そのまゝこち
ふ〳〵ゝとぞ。まゝ〳〵と孫入もやぐるうゝくゝと

兵のあるをぞ。まちこびる

續膝栗毛十三編中冊終